

# 枝豆新品種「夏どり丹波黒3号」の特性および普及

農林水産技術センター 生物資源研究センター 応用研究部 内藤 一平

## 1 はじめに

黒大豆枝豆『京 夏ずきん』（品種名「夏どり丹波黒 2 号」、以降「2 号」）は、主に 7 月下旬から 8 月にかけて流通する京都府特産の枝豆である。「2 号」は莢の黄化が早いため、収穫可能な期間が短く、近年栽培面積と販売単価が伸び悩む一因となっている。

この問題に対して当センターは、収穫可能な期間が長い枝豆新品種の育成に取り組み、新品種「夏どり丹波黒 3 号」（以降「3 号」）を育成した。本報告では、新品種「3 号」の特性や現地普及において重要である、収穫時期判断指標の作成に関する取組の概要を報告する。

## 2 「3号」の品種特性

2021～2022 年に生物資源研究センター（以降生資研）ほ場で実施した栽培特性試験の結果、「3 号」は「2 号」と比較して一株あたりの莢数は少ないものの、一莢あたり莢重が大きく、約 7% 多収だった。また、収穫期間は約 5 日長く、枝豆の主要なウイルス病であるダイズモザイクウイルス A、C、D タイプに抵抗性を示した。これらの特性が『京 夏ずきん』新品種に適していると考え、現在「3 号」の品種登録を進めている（令和 5 年 12 月 26 日付 官報にて出願公表）。

## 3 「3号」の収穫時期の判断指標の作成

生資研、農林センター（亀岡市）および現地ほ場（綾部市、京丹後市）の「3 号」試験ほ場計 6 作期において、日平均気温を測定し、開花期以降の日平均気温を合算し有効積算温度とした。また、着莢を確認後 1 週間に 1 回、3 株/区について全莢の厚さを測定し、『京 夏ずきん』の出荷規格である 10mm の莢厚に達するまで調査を続けた。平均莢厚が 10mm に達するために必要な有効積算温度は約 1,100℃ だった（図 1）。また、調査期間中の莢厚を着莢部位別に分類したところ、主茎上位 4 節の莢厚の推移は株平均の莢厚と近い値を示した（図 2）。

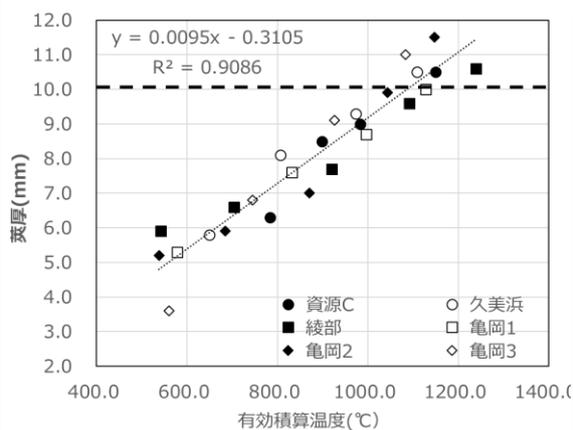


図1 「夏どり丹波黒 3 号」の莢厚と有効積算温度の回帰式  
破線が平均莢厚10mmを示す。

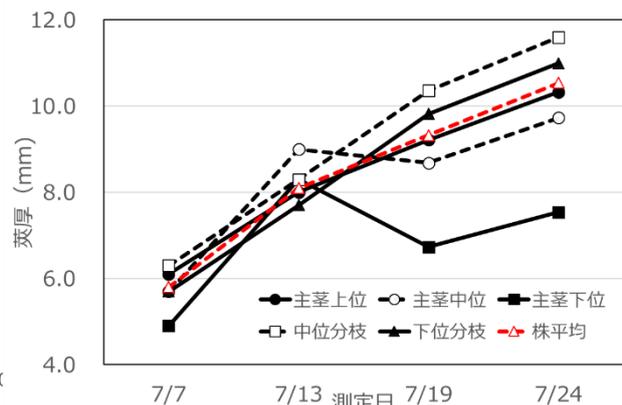


図2 「夏どり丹波黒 3 号」の着莢位置別における莢厚の推移

## 4 今後の展開

「3 号」は次年度の現地試作栽培を経て、2025 年から『京 夏ずきん』として本格栽培を開始する。次年度も引き続き気温と莢厚のデータを取得し、回帰式の精度を向上させるとともに、50m メッシュ気象データを活用した収穫適期予測モデルの作成に取り組む。

※本研究の一部は、令和 5 年度タキイ財団寄附金をもとに実施した。